

出ストキハ之レヲ會議ノ議案トナスコトヲ得但意見書ヲ出スハ開
會ヨリ三日以前タルヘシ

第七条 連合会期中議員ノ発議ヲ以テ其連合町村ノ利害ニ関スル事
件ニ付キ其筋ヘ建議セントスル者アレハ先會議ノ許可ヲ得テ之ヲ
會議ニ付シ可決スルトキハ其町村又ハ其會ノ名議ヲ以テ之ヲ建議
スル事ヲ得

第八条 連合会ハ議員ノ招集ニ応セス又ハ事故ヲ告スシテ參會セザ
ルモノヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

第九条 連合会ハ議事ノ細則ヲ議定シ之レヲ施行スルモノトス

第二章 撰 挙

第十条 連合会ノ議員ハ各町村會議員中ヨリ互撰投票ヲ以テ式人ツ
ツ撰挙スルモノトス

但數町村連合会ニ於テハ時宜ニヨリ郡長戸長若クハ議員三分ノ
一以上ノ同議ニヨリ議員ノ數ヲ増減スルコトアルヘシ

第十一条 議長副議長ハ議員中ヨリ投票ヲ以テ之ヲ撰定シ戸長及郡
長ニ報告スヘシ

但正副議長及議員ハ俸給ナシ然レトモ會期中相当ノ日當ヲ給ス
其金額ハ會議ニ問フテ之ヲ定ム

第十二条 書記ハ議長之レヲ撰ヒ庶務ヲ整理セシム

但俸給ハ會費ノ内ヨリ之レヲ給ス

第十三条 議員ヲ撰挙セントスルトキハ先各町村戸長協議ノ上撰挙
會日ヲ予定シ少クモ十日以前之ヲ各町村會議員ニ達シ投票用紙ヲ
渡シ互撰投票ヲナサシムヘシ

第十四条 投票ハ予定ノ日ニ至リ戸長役場ニ於テ之ヲ為スヘシ
但時宜ニヨリ役場外ニ於テ撰挙會ヲ開クコトヲ得

第十五条 町村會議員撰挙會予定ノ日ニ至リ予メ戸長ヨリ頒布シタ
ル投票用紙ニ自己及被撰人ノ姓名ヲ記シ之レヲ戸長ニ出スヘシ
但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ケナシ

第十六条 投票ハ撰挙人ノ面前ニ於テ戸長之レヲ披閱シ最多數ノ者
ヲ以テ當撰人トシ同數ノ者ハ年長ヲ取り同年ノ者ハ圖ヲ以テ定ム

第十七条 投票披閱終ルノ後戸長ハ町村會議員名簿ニ付テ當撰人ヲ
査定シ當撰狀ヲ渡シ當撰人ハ請書ヲ出スモノトス

但當撰人受書ヲ出シタル後戸長ハ其姓名ヲ町村内ニ公告シ且郡

長ニ具申スルモノトス

第十八条 議員ノ任期ハ四ケ年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス
但第一回二期ノ改撰ヲ為スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第十九条 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰ス
ヘシ

第二十条 前二条ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スル事ヲ得

第二十一条 議員中欠員アルトキハ直ニ之レニ代フル者ヲ撰挙スルモノトス

第三章 議 則

第二十二条 議員半数以上出席セサレハ当日ノ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十三条 那長戸長又ハ其代理人ハ該会ニ於テ議案ノ旨趣ヲ弁明スルヲ得然レトモ決議ノ数ニ入ルヲ得ス

但第六条ニ掲クル議案ノ旨趣ハ意見書ヲ出セル議員之ヲ弁明スルヲ得

第二十四条 會議ハ過半数ニ依リテ決ス可否同数ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十五条 會議ハ傍聴ヲ許ス
但那長戸長及本案者ノ需ニヨリ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聴ヲ禁スルヲ得

第二十六条 議員ハ會議ニ當リ充分討論スルヲ得然レトモ人身上ニ付テ褒貶毀誉ニ涉ルヲ得ス

第二十七条 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得

第四章 開 閉

第二十八条 全部連合会数町村連合会ハ那長又ハ連合町村戸長協議ノ上之レヲ開キ若クハ議員五分ノ一以上ノ同意ヲ以テ開会ヲ要スルトキハ開会スルコトヲ得

トキハ開会スルコトヲ得

第二十九条 連合会ハ開閉共那長へ具上スルモノトス

第三十条 会期八十日以内トス

但シ期限内議了セサルトキハ其事由ヲ再申シ更ニ日限ヲ伸フルコトヲ得

南多摩郡八王子横山宿々会規則

第一章 總 則

第一款 本会ハ当宿公共ニ関スル事件及ヒ經費ノ支出徴収方法并議事ノ細則ヲ議定ス

第二款 本会ハ通常會ト臨時會ノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者通常會トシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トス

但臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限り其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第參款 通常會臨時會ヲ論セス議案ハ總テ戸長ヨリ之ヲ發ス

但通常會ニ於テ議員ヨリ意見書ヲ出ストキハ戸長之ヲ調査シ當ニ議スヘキモノト認ルニ於テハ直ニ議案トナスヘシ尤モ意見書

ヲ出スハ開会ヨリ三日以前タルヘシ

第四款 本会ノ決議ハ議長ヨリ戸長ニ届出戸長ハ之ヲ三日以内ニ宿

内ニ公告スヘシ

第五款 本会ハ毎年通常会ノ初ニ於テ経費ニ係ル前年度ノ出納決算

ノ報告書ヲ受ケ戸長ニ其説明ヲ求ムルコト得^(ラ脱)

第六款 通常会期中議員ノ中当宿ノ利害ニ関スル事件ニ付県令ニ建

議セントスル者アレハ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ本会ノ所見

トシ議長ノ名ヲ以テ建議スルコトヲ得

第七款 議員ノ中招集ニ応セス亦ハ事故ヲ告ケスシテ参会セサルモ

ノハ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得ル

第二章 選挙

第一款 本会ノ議員ハ廿名トシ議長副議長ハ議員中ヨリ公撰ス

但議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ

第二款 書記ハ議長之ヲ撰ミ庶務ヲ調理セシム其俸給ハ会費中ヨリ

之ヲ支給ス

第三款 本会ノ議員タル事ヲ得ヘキ者ハ満二十歳以上ノ男子ニシテ

当宿内ニ本籍住居ヲ定メ且土地ヲ有スル者ニ限ル

但左ニ掲タル者ハ議員タルコトヲ得ス

第一項 風癩白痴ノ者

第二項 徴役一年以上及ヒ国事犯禁獄一年以上ノ実決ノ刑ニ処セ

ラレ満期後未タ七年ヲ経サル者

第三項 身代限ノ処分ヲ受テ負債ノ弁償ヲ終ヘサル者

第四項 官吏及ヒ教導職

第五項 本会ニ於テ退職者トセラレタル後一ケ年ヲ経サル者

第四款 議員ヲ撰挙スル事ヲ得ヘキ者ハ満廿歳以上ノ男子ニシテ当

宿内ニ本籍住居ヲ定メ且土地ヲ有スル者ニ限ル尤前款但書ニ掲ク

ル第一第二第三第五各項ニ触ル、者ハ撰挙人タル事ヲ得ス

第五款 議員ヲ撰挙セントスルトキハ戸長ハ五日以前ニ撰挙会ヲ開

クヘキ旨ヲ公告シ当宿役場或ハ役場外便宜ノ場所ニ於テ撰挙会ヲ

開クコトヲ得

第六款 撰挙人ハ戸長ヨリ付与シタル投票用紙ニ自己及被選人ノ住

居姓名ヲ記シ^(マ)預定ノ日之ヲ戸長ニ出スヘシ其投票多数ヲ得タル者

ヲ以テ当撰人トシ同数ナレハ年長ヲ取り同年ナラハ闖ヲ以テ之ヲ

定ム 但投票ハ代人ニ托シ差出モ妨ナシ

第七款 投票終ルノ后戸長ハ撰挙人名簿ニ就テ投票ノ当否ヲ査シ又

被撰人名簿ニ就テ当撰人ノ当否ヲ査シ若法ニ於テ不適當ナルカ或

ハ当撰人自ラ其撰ヲ辞スルトキハ順次投票ノ多数ヲ得タル者ヲ取

ル

第八款 当撰人ノ当否ヲ査定スルノ后戸長ハ其当撰人ヲ役場ニ呼出

シ当撰状ヲ渡シ請書ヲ出サシメ然ル后其姓名ヲ宿内ニ公告スヘシ

第九款 議員ノ任期ハ四年トシテ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回

二年期ノ改撰ヲナスハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第十款 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘ

シ

第十一款 前二款ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第十二款 議員中第二章第三款但書掲クル場合ニ遭遇スルカ其他総

テ欠員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰挙ス

第三章 議 則

第一款 議員半数以上出席セサレハ当日ノ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二款 會議ハ過半数ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可決ス

ル処ニ拠ル

第三款 戸長若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ弁明スル事

ヲ得ルト雖トモ決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス尤モ第一章第三款但書

ニ掲クル議案ノ旨趣ハ意見書ヲ出セル議員之ヲ弁明スルコトヲ得

第四款 會議ハ傍聴ヲ許ス

但戸長ノ需メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聴ヲ禁スルヲ得

第五款 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付

テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第六款 議場ヲ整備スルハ議長ノ職掌トス倘シ規則ニ背キ議長之ヲ

制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セ

シムルコトヲ得

第四章 開 閉

第一款 本會ハ毎年五月十一月ニ於テ之ヲ開ク其開閉戸長ヨリ之ヲ

命シ會期ハ十日以内トス

但戸長ハ會議ノ衆議ヲ取り其日限ヲ伸ルコトヲ得

第二款 通常會ノ外會議ニ付スヘキ事件アツテ戸長ヨリ開會要スル

カ又ハ議員全數三分以上ノ同意ヲ以テ開會ヲ要スルトキハ臨時會

ヲ開ラクコトヲ得

右ハ当宿々會規則前書之通制定議決奉呈仕候間御裁可被成下度此段

上申候也

南多摩郡八王子横山宿

議長不在

明治十四年三月十二日

副議長 谷 合 弥 八 印

神奈川県令 野村 増殿

戸 長 石川 善右衛門 印

水利土功会規則

第一章 総則

第壹条 本会ハ神奈川県北多摩郡拝島村中村大神村三ヶ村ノ水利

土功ニ関スル事件及経費ノ支出予算徴収方法ヲ議定ス

第貳条 本会ヲ二類ニ分子定期ニ開クヲ通常会トシ臨時ニ開クヲ臨時会トス

但臨時会ハ特ニ会議ヲ要スル事件ニ限り之レヲ議ス

第参条 本会ノ議案ハ総テ連合戸長協議ノ上之レヲ発ス

第肆条 通常会期中議員ノ内三人以上ノ發議ヲ以テ連合各村内ノ水利土功ニ付シテ可決スルトキハ本会ノ所見トシテ議長ノ名ヲ以テ建議スルヲ得ル

第五條 本会ハ毎年通常会ノ始メニ当リ水利土功費ニ係ル前年度出納決算ノ報告書ヲ受ケ戸長ニ説明ヲ求ムルコトヲ得若シ異議アルトキハ議長ノ名ヲ以テ上申スルヲ得

第六條 決議ハ議長ヨリ戸長ニ届出戸長ハ之ヲ五日以内ニ村内ニ公告シ然ル後施行スルモノトス

第七條 議長副議長及議員ハ日当金若干ヲ給ス該金額ハ會議ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

但書記ノ俸給ハ議長適宜ニ之ヲ定メ會費ノ内ヨリ支給ス

第参章 撰挙

第八條 本会ノ議員ハ連合各村ノ耕地地ヲ論セス水害反別五町歩毎ニ壹名ヲ定員トス

但拾町歩未満五町歩以上ハ二名ヲ撰出シ拾町歩以上五町歩前後ノ端數ハ切捨ツルモノトス

第九條 本会ノ議員ハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ連合各村内ニ水害反別三反歩以上所有スルモノニ限ル

但左ノ各款ニ触ル、モノハ議員タルヲ得ス

第一 風癪白痴ノ者

第二 旧法ニヨリ壹年以上徴役及国事犯禁獄ノ刑ニ処セラレ滿期後五年ヲ経タル者

新法ニヨリ公權ヲ剝奪及停止セラレタルモノ又ハ一年以上輕重禁錮刑ニ処セラレ滿期後五年ヲ経サル者

第三 身代限ノ処分ヲ受ケ負債ノ弁償ヲ終ヘサルモノ

第四 官吏及教導職

第十條 議員ヲ撰挙スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ連合各村内ニ水害土地ヲ有スルモノニ限ル

但前条第一第二第三ノ各款ニ触ル、モノハ撰挙人タルヲ得ス

第十一条 議長副議長ハ議員中ヨリ公撰シ之ヲ戸長ニ届出可シ

第十二条 書記ハ議長之ヲ撰ミ庶務ヲ整理セシム

第十三条 議員ノ任期ハ滿四ケ年トシニケ年毎ニ全員ノ半数ヲ改撰

スルモノトス第一回ニ改撰ヲナスハ抽籤法ヲ以テ退任ノ人ヲ定ム

但前任ノ者ヲ再撰スルヲ得ル

第十四条 議長副議長ハ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘシ

但前任ノ者ヲ再撰スルヲ得ル

第三章 議 則

第十五条 議員半数以上出席セサレハ当日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第十六条 會議ハ過半数ノ同意ニ因テ決ス可否同数ナルトキハ議長

ノ可否スル処ニ依ル

第十七条 戸長其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ弁明スルヲ得ル

ト雖モ決議ノ數ニ入ルヲ得ス

第十八条 會議ハ普ク傍聴ヲ許ス

第十九条 議員ハ會議ノ事項ニ當リ充分討論スルヲ得ルト雖モ或ハ

議論詭激ニ涉リ人身上褒貶毀譽ニ触ル、トキハ議長之ヲ中止ス

第二十条 議場ヲ整理スルハ議長ノ職權トス議員若シ規則ニ背キ議

長ノ命ニ従ハサルトキハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得

第四章 開 閉

第廿一条 通常會ハ毎年三月十日之ヲ開キ其開閉ハ戸長ヨリ之ヲ命

シ會期ハ三日以内トス

但戸長ハ議會ニ問ヒ會期ヲ伸フルコトヲ得

第廿二条 通常會期之外連合戸長ニ於テ會議ニ付ス可キ事件アリテ

開會ヲ要スルカ又ハ議員全數三分一以上ノ同議ヲ以テ開會ヲ求ム

ルトキハ臨時會ヲ開クヲ得

備荒儲蓄ノ狀況

備荒儲蓄ノ儀ニ付テハ民間更ニ苦情アルヲ聞カス本年県會ニ於テモ

總テ原案通ニ議決セリ其額左ノ如シ

○明治十六年度区部備荒儲蓄金収支予算

一金千五百七拾円七拾九錢六厘 収入総額

内 訳

一金九百九拾円四十錢 本県公儲金

一金四百九拾五円八錢三厘 政府配付金

一金八拾五円三拾零錢三厘 公債証書七朱利子

一金百三拾五円 支出総額

内 訳

一金三拾円	避難所借入費
一金百五円	焚出飯諸費
一金千貳百七拾円七拾九錢六厘	儲積総額
○同上郡部予算	
一金三万三千八百九拾壹円九拾五錢八厘	収入総額
内訳	
一金壹万六千貳百三拾七錢二厘	本県公儲
一金壹万五千八百六拾九円九拾一錢七厘	政府配当金
一金千百五拾円拾錢	儲積公債証書七朱利子
一金七百六拾九円五拾六錢九厘	儲積預ケ金八朱利子
一金三千百六拾円	支出総額
内訳	
一金三千百円	給与補助貸与金
一金六拾円	経費
一金三万七百三拾壹円九拾五錢八厘	儲積総額
内訳	
一金壹万六千九百四拾五円九十七錢九厘	公債証書買入金
一金壹万三千七百八拾五円九十七錢九厘	預ケ金

士族ノ状況

本県ハ士族ノ数少ナク県庁ノ保護授産ヲ要スルモノハ独リ旧小田原藩アルノミ該士族ハ明治十年第四拾四国立銀行ニ公債証書ヲ差入レ株主トナリタル者多カリシカ彼等ハ該銀行ノ損失ニ付多ク資産ヲ失ヒ進退頗ル困窮セリ又精米社ナル者ヲ設ケ亜米利加ノ精米器械ヲ用ヒ精米ノ業ヲ営マントセシカ是亦失敗解散スルニ至レリ其解散ノ原因タルヤ同盟社員ヲ以テ職員及職工ニ充テ其事業ヲ採ラシムルニ因リ自然其器械ノ運転ニ慣レサルヨリ凶ラサル損失ヲ致シ加之試験ノタメ設ケタル五馬力ノ器械及家屋等悉皆焼失ノ災ヲ受ケ是レカタメ多少資金ニ不足ヲ生シタルノ後更ニ三拾馬力ノ器械ヲ設ケシニ売捌キ方未タ広カラサルヲ以テ其器械モ十分ノ用ヲナスコトナク又日々ノ益金以テ其薪木等ノ費用ヲ支フル能ハス而シテ内ニハ社員其景況ヲ危ミ前約ノ株金大凡二千元余ヲ出サ、ル者アリ斯ル不都合ヲ醸シテ遂ニ解散セシト云フ斯ク如ク二回ノ失敗ニテ弥々生活ノ途ヲ失ヒ自ラ方
向ヲ知ラサルモノ多シ然レトモ尚ホ奮勵自営ノ途ヲ立テント欲シ漁市場ヲ設ケテ漁類ノ仲買ヲ為スモノアリ又積小社ナル貸付金会社ニ委託シテ機械場ヲ設ケ士族力役場トナサントスルノ議アリ県令モ該地士族授産ノ事ニ付テ頗ル尽力スル見込ナルカ如シ

銀行諸会社及横浜取引所ノ状況

銀行及ヒ諸会社營業ハ一般商業ノ不景氣ナルカガメニ多少閑隙ナルヲ覺フト雖モ其困難甚シキニアラス但横浜取引所ハ布告以來大ニ衰微ヲ來タシ目下取引中止ノ勢ヒナリ右ノ銀行諸会社及ヒ取引所ノ現況ハ別冊県庁ヨリ提出セル取調書中ニ詳カナルヲ以テ添テ參考ニ供ス

銀行諸会社株式取引所景況

管下国立銀行ハ正金銀行ヲ加エ本支店ヲ併セ九ヶ所資本金四百十八万円トス此内管下ニ本店ヲ置ク者ハ正金第二第七十四第三十六第六三拾二ノ五行ニシテ支店ヲ置ク者ハ第一第七第三十五第百ノ四行ナリ今左ニ其概況ヲ述ンニ

正金銀行ハ昨十五年以來逐次其衰替ヲ挽回シ方今大ニ其基礎ヲ堅固ニシ頗ル世ノ信用ヲ得タルヲ以テ株券ノ価直モ漸々騰リテ目下百拾円余トナレリ而シテ本年下半年利益配当割合ノ如キモ商業ノ振ハサルニモ拘ラス之ヲ本年上半年配当割合ニ較レハ二三分ヲ増加スルノ見込ナリト云フ

第二銀行ハ著名ナル鞏固ノ銀行ニシテ業務繁盛株金ニ対スル利益配当割合ノ如キハ常ニ諸国立銀行ニ冠タリ現時其株券ノ価直百五十拾円以上ナルノ一事ヲ以テモ世ノ之ヲ信用スル厚キヲ見ルヘシ

第七拾四国立銀行ハ一昨十四年中不時ノ損失ニヨリ殆ント鎖店ノ困難ニ陥溺シタリト雖トモ漸次回復ノ途ニ就キ目今ニ至テハ世之ニ充分ノ信ヲ置クニ至レリ

第三拾六国立銀行ハ其位置管下著名ノ生糸織物産出地ナルヲ以テ營業繁劇往々資金ノ不足ヲ告ルヲ以テ昨十五年資本金五万円ヲ増加シ爾來益々其業務ヲ盛營シ産出者之ヲ便トシ之ヲ信スル厚シ云フ^(ト也)

第百三十二国立銀行ハ其本店ヲ保土ヶ谷駅ニ置クト雖トモ營業ハ重ニ東京ニ於テス而シテ本年四月一時鎖店ヲ命セラレタル以來戒謹着実業務ニ従事スルト云フ

第一及第百七国立銀行支店ハ重ニ普通銀行業務ヲ經營シ第三拾五及第百国立銀行支店ハ重ニ荷為換ヲ取扱フ而シテ四店大小アリト雖トモ皆世ノ信用スル所ナリ

右各銀行本年一月以來七八月頃迄ハ營業上格別ノ障碍ニ遭逢セサリシモ八九月頃ヨリ銀貨次第ニ低落シ十一月ニ至リ其低落益々甚シク銀貨ヲ抵当トシテ貸金ヲ為スハ勿論輸出品ノ荷為替ヲ取扱フモ損失ヲ免ル、能ハサル勢ニシテ諸物価モ亦頻ニ下落シ商業振ハス資本ノ需用ナキヲ以テ殆ント營業ノ途ヲ杜絶シ一時ハ余程困難ノ地位ニ立テリ爾后銀貨ノ価少シク昇騰シ且歳末ニ近ツキタルヲ以テ稍々此衰状ヲ回復シタルカ如シト雖トモ尚ホ金融ハ緩漫ニシテ金利ハ之

ヲ本年五六月ノ頃ニ較レハ二三分許ノ低落ナリト云フ以テ銀行景況
ノ一斑ヲ知ルヘシ

管下私立銀行ハ三井銀行ヲ除キ本支店ヲ併セテ十九ヶ所資本金百貳
拾五万余円ニシテ銀行類似会社ハ倉庫金融ニ会社ヲ除キ六十六ヶ所
資本金三拾三万余円ナリ而シテ私立銀行ノ重ナル者ハ横浜ニ於テ丸
三銀行ハ王子ニ於テハ八王子銀行青梅ニ於テ多摩銀行等トス此等私
立銀行ニ於テハ業務ヲ經營スル活潑ニシテ資本運轉ハ国立銀行ヨリ
モ繁ク借出預入請取等ノ手数ノ如キモ之ヲ国立銀行ニ較レハ簡便ナ
ルヲ以テ之ヲ悦フ者多シ然レトモ条例ノ之ヲ檢束スル者ナキカ故ニ
動モスレハ危険ヲ冒スノ傾キアリト云フ

銀行類似会社中誠実ニ業務ニ従事スル者尠トセス雖^(ト脱)モ往々高利ヲ貧
リ毎月縛天利ト唱ヒ最初悉ク期限内ノ利子ヲ引去リ且別々ニ不当ノ
手数料ヲ取リテ貸金ヲ為シ期限ニ到レハ峻酷ニ其返弁ヲ督責シ毫モ
仮ス所ナク義務者延期ヲ請フヲ奇貨トシ証書ヲ書キ換吏更ニ期限内
ノ利子及手数料ヲ出サシムル者アリ細民ノ力カニ窮淵ニ陥ルモノ
少カラス為メニ身代限ノ処分ヲ受クル者尤多シト云フ

私立銀行銀行類似会社ノ如キモ亦本年十月以來多少衰状ヲ呈セサル
ハナク随テ其新設ヲ出願スル者稀ナリ以テ世間資本ノ需用少キヲ知
ルヘシ

管下商業会社ハ本支店ヲ併セテ百廿一ヶ所資本金貳百四拾八万二千
八百余円ナリ而シテ本年九月迄ハ陸續新設ヲ出願スル者アリテ結社
營業ハ漸次隆盛ニ赴クノ姿ヲ顯ハシタリト雖トモ九月以來物価次第
ニ下落シ商業日ニ衰替シ十二月ニ至リテハ不景氣益々甚シク更ニ
之ヲ新設スル者ナキノミナラス売込營業ノ者ヲ除クノ外已ニ設立シ
タル者モ其維持ニ苦シム程ナリシト云フ然レトモ目下歲末ニ近ツ
キヲ以テ多少繁ヲ加エ少シク回復ノ色アリト云フ

本港株式取引所ハ全国取引所中首位ヲ占ムル者ニシテ昨十五年中売
買シタル銀貨ノ額ハ四億六千六百六拾五万三千円一日平均九百二十
七万円ナリ然ルニ本年四月一日ヲ以テ昨十五年十二月ニ於テ布告セ
ラレタル六十五号ヲ実施セラレテヨリ其売買頓ニ跡ヲ絶チ当八月二
十七号ヲ以テ更ニ二ヶ月以内ノ定期売買ヲ許可セラレタリト雖モ其
当初僅ニ一枚〔千円〕ノ売買アリタルノミニシテ爾後売買ノ声ヲ聞
カス其仲買人モ漸次退社ニシテ現今付屬スル者ハ僅カニ八九人ニ過
キス全ク休業ノ姿トナレリ取引所ノ景況ハ已ニ此ノ如クナリト雖ト
モ貿易ハ一日モ止ムヘキ者ニアラス故ニ銀貨ノ売買モ亦一日モ止ム
可カラス然ルニ売込取引商ハ兩換店ニ就キテ之レカ売買ヲ為サンヨ
リハ寧ロ店頭売買人ニ依頼スルヲ以テ便トス故ニ店頭売買ハ倍々行
ハレ已ニ法ニ触レタル者六拾名拘引セラレタリト雖モ未タ其跡ヲ絶

ツニ至ラス却テ漸々其數ヲ増スモノ、如シ是レ株式取引所ノ衰頽ヨリ起リタル弊害ニシテ之ヲ除クハ実ニ目下急務ト云フヘシ

民情

県下一般民情平穩ナリ然ルニ俗ニ所謂三百代言人ナル者村落ヲ徘徊シ愚民ヲ誑惑シテ金錢ヲ貪ルモノ往々有之相州三浦郡三崎村ノ如キ數百ノ漁戶拳テ其術中ニ陥ラサル者ナキニ至ル其狀況ニツキ郡長ヨリ申出タルコト左ノ如シ

一 近頃金貸營業次第ニ増加シ昨今百人ニ下ラス就中三十人余(俗三百代言ト)是等ノ金錢ヲ一度三円ヲ借受一ケ年半ヲ経過セハ元利積テ三十円余ニ昇リ其貸方ノ如何ヲ問フニ初メハ三円貸セシコトハ瞭然ナルモ爾后滿期ノ度毎元利ヲ結ンテ証書ヲ改メシコト數度然レトモ其母子金ノ多寡ニ至リテ之ヲ細別スルコトヲ知ラス剩ヘ書換ノ故証書ノ取戻シ等ニ至リテハ敢テ意トセス只一時ノ催促ヲ免レタルヲ喜ヒ后日ノ憂ノ來ルヲ慮ラサルナリ該書ニ就キ聞ク所ニヨレハ

某月一日ニ金一円ヲ借受タキコトヲ金貸業ノ者ニ乞フ金貸日本月限ナレハ用違ヘシ金利八月々八厘ツ、(之レヲ天保) 每月之レヲ納レ尽月ニ至リ元金ノミヲ返済スヘキノ納ヲ結ヒ保証人ヲ定メテ借

用証ノ認メ方ニ至リテ負債主無筆ニシテ且婦人ナレハ書記スルコト能ハス之ヲ債主ニ依頼ス債主ハ予メ是等ニ供スル數通認メアル証書ノ内一枚ヲ出シ金員ノミヲ記入シ保証人ノ誰ナルヤヲ問ヒ之ヲ書記シ保証ノ印形ヲ該家ノ妻ニ借受ケ我夫ノ実印ト俱ニ債主ニ渡ス債主之レヲ受テ捺印ス隣家何某ハ勿論負債主モ保証人即チ保証人ナリト心得シモ証書ハ連借ニ認メアリ(何レモ債主ノ宛名)甚シキハ債主ニ於テ負債主一名ノ証書ヘ出訴ノ際負債主ノ親族ヲ故造シテ保証トシ又ハ連借ニ書加ヘ偽印ヲ押シ之ヲ公裁ニ訴フ裁判官ハ証書面ニ付召喚狀ヲ發付ス爰ニ於テ初テ驚クト雖トモ無筆ノ漁民殊ニ妻ノ主ル所ナレハ出庭(マヤ)之レカ偽証ノ詐造ナルコトヲ答弁スル能ハス且横浜迄ノ旅費ニ差支旁他人ニ取扱ヲ頼ミ幾分ノ金円ヲ投シ示談ヲ致スモノ不尠又ハ返付スヘキ書換ノ古証文(即チ)ヲ他(二脱)ノ出訴者売渡シ若クハ之ヲ買受自ラ証書余白ヘ我力宛名ヲ書人レ一応ノ催促モナク出訴シ召喚狀ニヨリテ考フレハ右原人ヨリ金錢借用セシ覺ヘ無之然トモ慥ナル証書原告ノ手ニ存在センニ依テ不得止扱人ヲ頼ミ示談スル者往々有之(債主ノ名前記入セサル証書ハ他ニ売渡ス用意ナリ)

債主負債主ノ取扱右ノ振合ナリ人民無識ヲ甘シ其証拠ヲ得テ訴ル処ナレハ如何トモ致方ナキ次第ナリ

一 漁民ノ中チ一家ノ負債計量スルトキハ殆ト二千円ニ近キモノア

リテ日々捕魚ノ收穫ニテハ一家ノ經費ヲ去レハ負債ノ子金ヲモ償
 フラ得ス况ヤ母金返済ノ義務ヲヤ故ニ一漁船ノ帰帆スルヲ見レハ
 債主数人之ヲ擁シ高声ニ催促シ其收穫ヲ自宅ヘ持帰ルヲ許サス於
 是漁民ハ即時飢渴ニ迫リ僅ニ其日ヲ凌キ翌日未明ニ男子ハ出船ス
 依テ留守居タル婦ニ対シ債主ハ之レヲ促カシ甚シキニ至リテハ之
 ノ腕力ニ訴ヘント欲スルノ勢ニ恐レ婦女女子ハ多ク昼間他家ニ身ヲ
 通レ夜ニ入りテ帰宅寝ニ就クハ午后十二時頃ナリ此時ヲ窺ヒ債主
 再ヒ之ヲ襲ヒ其門戸ヲ敲キ嚴促ニ及ハレ一家拳テ他郷ニ避在シ
 (多クハ房総海岸ニ寄留) 漁業スルモ間ニアリテ名状スヘカラサルノ情態ナリ
 然シテ其残り居ル負債主共ヘ裁判所ヨリ召喚状一時ハ日トシテ百
 通ノ多キニ至リシコトアリテ身代ヲ差出ス如キハ続々絶ス之レ自
 業自得ニシテ止ムヲ得スト雖トモ中ニハ出庭ノ旅費ニ困シ遂ニ喚
 徴不応ノ罪科ニ問ハレ其罰金亦完納スルコト能ハスシテ力役ニ替
 ラル、者アリテ家族ハ在宿スルモ無職ナレハ目下ノ糊口ニモ塗ヲ
 失ヒ実ニ惘然ノ極ニ至レリ依テ昨十五年ニ至リ窮民婦女子相率テ
 処々ニ集合シ生營ノ業ヲ仰カントノ報アルニ由テ警察官ト俱ニ該
 地ヘ出張懇々相諭シ一ト先解散ヲ命セリ其后婦女子共打連レ郡役
 所ヘ出来リ哀訴スル情状ヲ聞クニ其主トスル処ハ該金返済方永年
 賦返済ヲ望ミ債主ノ了諾ヲ乞フニアリ依テ之レヲ債主ニ懇解説論

スルモ債主之レニ服セス都詰ル所之ヲ法律ニ訴ルノ外他事ナキニ
 付右説論モ水泡ニ属セリ

一 家屋漁具等ヲ抵当ニ引取ラレ且身代限ニテ負債ノ金額ヲ償フ能
 ハスシテ家屋公売所分ヲ得シモノ一時雨露ノ凌ク可キ所ヲキハ素
 其地狭ク殊ニ貸店等無キヲ以テ海辺ヘ仮ニ苦家ノ如キヲ設ケ生業
 ノ途ヲ与ヘンコトヲ有志者ニ詢リ略承諾セシニ由テ県庁ニ乞ヒ該
 費ノ内ヘ幾分カノ資助ヲ仰キ置キタリ

一 該地戸長及ヒ有志者ニ相詢リ彼ノ漁民該地ニ相統ノ方策ヲ設ケ
 ンコトヲ協議シ從來漁民ヘ貸付シタル債主ノ金高ヲ纏メ一社〔共
 益社〕ヲ設ケ負債ノ漁夫日々捕魚收穫金ノ内三分一ヲ該社ニ積立
 金百円ニ充ツレハ債主共ニ入札法ヲ用ヒ糶リ落サセ(貸金百円ノ証
 書ヲ所持ノ者
 五円乃至十円ニ糶リタ
 ヲ金ノ尤モ低キニ落ス) 既ニ三月中百円ノ証書ヲ所持スル者該証書
 ヲ金四円五十銭手取ニ糶リ落セシ由斯クシテ該糶落金ヲ相渡シ残
 金ハ債主共一般ノ証書金額ニ応シ割渡ノ方法ニ定メタリ依テ現今
 貸金債促出訴ノ途既ニ絶ヘントスルニ至レリ且糶ニアルモ社外ノ
 債主ノミニ帰セリ

以上ニ述ル不学無識ノ漁民ニシテ加フルニ狡猾飽ナキノ債主ニ対ス
 ルニ疎忽ノ契約ヲ為スニ生スルノ致スルニシテ勢ヒ止ムヲ得サルナ
 リト雖トモ是等ノ弊害独リ此土ミニ非ラスシテ至ル所咸此弊アルア

ラン故ニ政府爰ニ先見セラレ十年^{七月}第五十号ヲ以布告セラレシナ
リ実ニ之ヲ防クノ良器ト雖モ如何セン人民之ヲ遵守セス之ヲ遵守セ
サルニ非ラス政府ノ此意ノ厚キヲ解セサルニ由リテ往々此書ヲ被ム
レリ故ニ小官ノ仰ク所ハ左ニ記スルノ意ヲ増加アラレンコトヲ切ニ
冀望ニ堪サルナリ

証書認所戸長役場側ニ設代書人ヲ置キ都テ諸証書ハ該所ニテ為相認
メ度自筆及他ノ代書人ニ為認メ候分モ該所経由印ヲ押捺シ此區別ナ
キモノハ裁判功ナキモノト致シ度候

神奈川県民情ノ内

相模国足柄上下両郡ノ人民酒匂川堤防治水費ヲ官費ニ属セラレンコ
トヲ切望スルノ情況アリ蓋シ其大意ハ旧時ニアリテハ本川沿堤村ニ
ハ流作地同様ノ余地ヲ沿岸ニ存シ貢租ヲ蠲除セラレタルヲ以テ村費
ヲ以テ官費ヲ補助スルニ苦難ヲ覚エサリキ然ルニ地租改正ノ際挙テ
有税地トナリシヨリ当時沿川村々ハ將來治水費支弁ノ苦難ナラシコ
トヲ想像シ事由ヲ具シテ管轄庁ニ上願セルニ治水ノ事ニ至テハ追テ
良法施行セラル、旨ヲ以テ竟ニ訴願徹底スルヲ得ス按スルニ地租改
正ニ臨ミ沿堤ノ郡村ニ於テハ苦情殊ニ多カリシ其重ナルモノハ堤防
ノ費用ナリ村費トシ引去リタル地租三分ノ一ハ沿堤ノ村ニ其他村々
ノ別ナク一様ナル法故堤防付ノ各村ハ他ニ比スレハ独り余分ノ村入

費ヲ負担スルニ当リ且民力ノ及カタキヲ憂ヘ歎願ヲナセシ然ルニ地
租改正法ハ堤防費用ハ算計セス治水ノ一段ハ別ニ土木費改正ノ時公
平ノ良法ヲ設ケル訳ナリト論サレタル由ナリ是レハ独り相模川酒匂
川而已ニアラス沿河村々一般如此ニ取扱タルナリ民間ニ於テ川普請
苦情中第一ノ口実トスルモノ此ニアルト想ハル爾來地租改正済ニテ
沿岸二十五ヶ村合計新旧地租二千七拾七円ノ新租ヲ増加スルニ至ル
ト雖モ治水ノ事ハ今以テ別段ノ詮議アルヲ聞カス故ニ一面ニハ納租
ヲ増シ一面ニハ大河ノ治水費ヲ負担セサルヲ得サルニ至ルヲ以テ実
ニ民力其出費ニ堪ヘスト云フニアリ

外国人関係ノ件

本県々令ノ事務ハ外国交際ニ関スル事過半ニシテ頻リニ交際ヲ親密
ニシ国權維持拡張ノ儀ニ熱心尽力シ内政ヲ修ムルノ間ナキカ如シ茲
ニ居留外国人ニ交渉スル条件別冊ノ通り取調電覽ニ供ス

外国人居留地々積及ヒ地価 居留地貸渡シ方法及ヒ地代

各外国居留人員 男何人
女何人

外国人ヨリ県庁ニ差出タル事件ノ数 公事
私事
何件

十五年及ヒ本年五月マテ外国人犯罪ノ件数并種類表

外国人ヲ雇入タル人員及ヒ給料但雇入ニ関スル契約ノ写

県庁ト外国人トノ間ニ取結ヒタル現行契約ノ種類

第一『^(朱書)外国人居留地々積及地価』

一 三拾七万四千七拾七坪四合壹タ

居留地々積

拾三万八千百七拾貳坪九合壹タ

横浜居留地々積

貳拾三万五千九百四坪五合

山手居留地々積

第二『^(朱書)居留地賃渡ノ方法及地代』

地価ノ義ハ元來地券面ニ記載セサルヲ以テ其実価ヲ難取調候事

一 地所賃渡ノ方法ハニアリ一ヲ糶貸ト云ヒ一ヲ特別貸ト云フ

一 糶貸

是ハ居留地々所ノ元代価ヲ定メ置キ外国人ヲシテ之ヲ糶上シメ元代価ヨリ高価ニシテ最上ノモノヘ地所ヲ賃渡シ地券ヲ付与ス爾後年々地代ヲ取立ルコト居留地普通ノ地所ハ皆此例ニ依ル

一 特別貸

是ハ糶貸ノ法ヲ用キスシテ地代ヲ取立候ノミニテ賃渡スノ法ナリ各国領事館及病院学校墓地其他ノ地所ハ皆此例ニ依リ賃渡定約書ヲ交付シ爾後年々約定ノ地代ヲ徴収スルコト但病院墓地等ノ内地借料取立サル分モ有之候事

一 洋銀六万五千五百二拾五弗五拾壹セント

一ヶ年地代并免許料取入高

内

洋銀三万六千三百三拾九弗九拾六セント

洋銀二万五千八百八拾五弗五拾五セント

第三『^(朱書)各外国居留人員 男何人 女何人』

一 三千五百拾貳人

居留外国人総数

内

横浜居留地ヨリ取入ノ分
山手居留地ヨリ取入ノ分

計	国名	戸数	口数	人口		内訳	
				男	女	男	女
不列顛	五〇	一七	三三	〇	三三	〇	〇
澳智利	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
洪牙利	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
西國	二八	一四	四二	〇	四二	〇	〇
合衆	五〇	二八	七八	〇	七八	〇	〇
獨逸	三〇	一六	四六	〇	四六	〇	〇
瑞西	三三	一八	五一	〇	五一	〇	〇
葡萄牙	六〇	三〇	九〇	〇	九〇	〇	〇
和蘭	三三	一六	四九	〇	四九	〇	〇
瑞典	三三	一六	四九	〇	四九	〇	〇
白耳諾	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
伊太利	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
西班牙	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
露亞	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
秘清	四三	二一	八四	〇	八四	〇	〇
計	六九三	三五一	一〇〇〇	三三七	三六八	四五一	三三六

第四『^(朱書)外国人ヨリ県庁ニ差出タル事件ノ数』

自明治十五年一月
至今年十二月一ヶ年間 外国官民ト往復セシ事件総数

一 総数六百六拾件 (六六〇)

公事〔外国官吏ト往復ノ分〕五百四十五件

私事〔外国人人民ト往復ノ分〕百十五件

此書簡数往復ニテ 千二百十四通

全 百二十通

内 訳

英国領事	二〇	和蘭国領事	二五	布哇国領事	一五
米國領事	〇	白耳義国領事	八	瑞典諾威国領事	一
清國領事	〇	伊国領事	五	白露国領事	三
仏國領事	〇	露国領事	二	領事會議長	三
独逸国領事	三	西班牙国領事	五	外国人人民	二
葡國領事	五	瑞西国領事	三	各国公使	一
丁扶国領事	六	澳國領事	四		

自明治十六年一月
至全五月間 外国官民ト往復事件数

一 総数二百七十六件 公事〔外国官吏ト往復ノ分〕百五十七件

私事〔外国人人民ト往復ノ分〕百十九件

此書簡数 四百五通

全 四千八通

計 書簡四百五十三通

内 訳

英国領事	〇	葡國領事	五	伊国領事	一
米國領事	二	秘露国領事	二	澳國領事	一
清國領事	五	和蘭国領事	三	領事會議長	一
独逸国領事	三	瑞典諾威国領事	三	各国公使	一
瑞西国領事	五	白耳義国領事	二	外国人人民	一
丁扶国領事	三	西班牙国領事	二		
布哇国領事	五	清國領事	三		
				二	一
				九	一

第五『^(朱書)明治十五年中外国人犯罪件数并種類表』

件数 一七九 人員 二二二

件 目	件 数	人 員
醉倒	二二	二二
酩酊暴行	二八	二八
横浜区外ニテ行商セシ者	二	二
脱艦人	二六	二六
殴打	二二	一六
殴打創傷	一五	一六
棄毀器物	四	一
不正品買取	一	一
詐欺取財	一〇	一〇
鴉牙烟輸入	四	四
水先規則違犯	二	二
窃盜	七	七

第3章 三新法体制

件目	件数	人員
酔倒	二	二
酩酊暴行	四	四
暴行	二	一
毆打	二	二
毆打創傷	一	一
詐欺取財及毆打	一	一
窃盜	四	四
幼者ヲ略取	一	一
脱艦人	八	八
合計	五三	五四

(宋書)
『明治十六年一月ヨリ五月迄 外国人犯罪件数并種類表』

件数 五三
人員 五四

過失物	—	—
物品掠奪	—	—
負傷	—	—
暴行負傷	—	—
暴行	二	三
暴行脅迫	—	—
合計	一七九	二二二

第六 (宋書)
『外国人ヲ傭入タル人員及給料』

明治十五年十二月 官傭外国人現員及給料表
并十六年五月

明治十五年十二月現員

人員 四名

給料 一ヶ月銀貨八百式拾五円

明治十六年五月現員

人員 四名

給料 一ヶ月銀貨五百九拾五円

臨時傭 (自明治十六年二月十五日三ヶ月間) 至全 五月十四日

人員 一名

給料 一ヶ月銀貨六百五拾円

以上傭入ニ係ル契約書別冊ノ通

但前記現員ノ内二名ハ目下試傭中ニ付未タ契約書無之候

明治十五年十二月 私傭外国人現員及給料表
并十六年五月

明治十五年十二月現員

人員 二名

給料 一ヶ月 金四拾円
洋銀百弗

明治十六年五月現員

人員 一名

給料 一ヶ月金四拾円

以上傭人ノ義ハ傭主ヨリ届出ニ止リ候ニ付契約書無之候

第七(朱書)「県庁ト外国人トノ間ニ取結ヒタル現行契約ノ種類」

- 一 英国領事館地貸渡約定
- 一 露国全断
- 一 瑞西国全断
- 一 山手公園地貸渡約定
- 一 英国海軍物置所地貸渡約定
- 一 米国病院地全断
- 一 仏国人アマ社中へ地所貸渡約定
- 一 各国病院地貸渡約定
- 一 米国領事庁地貸渡約定
- 一 日耳曼領事館地全断
- 一 清国同済医院地貸渡約定
- 一 横浜弄鞠社へ公園内地所貸渡約定
- 一 競船会社へ地所貸渡約定
- 一 独逸人「ヘルム」へ牛乳搾取所地貸渡約定

一 英国人「ウインスタンリー」へ全断

一 英国人「キルビー」へ屠牛場地所貸渡約定

一 清国人墓地貸渡約定

一 米国人「キルドイル」へ堀川岸物揚許可ノ約定

一 英国領事庁家屋売渡約定

一 英国兵隊屯所地建物引渡約定

一 居留地九拾五番地独乙人へ貸渡約定

一 米国人ミルラル女学校用地貸渡約定

計二十二件

別冊五通

約定書

明治十四年十一月十七日神奈川県令冲守固ト横浜在留英国人「ベルシワル・オスポルン」ノ間ニ下文ノ條款ヲ互ニ固守スベキ旨ヲ約定ス

第一条

神奈川県庁ヨリ各国人往復文書翻訳并通弁ノ為メ「ベルシワル・オスポルン」ヲ県令ノ配下トシテ明治十四年十一月十七日ヨリ無期限ニテ傭人候事

第二条

県庁ノ都合ニ依リ解備ヲ欲スル時ハ其旨ヲ「ベルシワル・オスポルン」ニ報知シタル日ヨリ起算シ六ヶ月目ヲ以テ解備期限トスベシ又「ベルシワル・オスポルン」ヨリ不得止事故相生シ暇ヲ願出ルトキモ亦六ヶ月前ニ其旨ヲ県庁ニ報知スベキコト

第三条

給料トシテ一ヶ月日本銀貨三百五拾円ニ当ル紙幣ヲ以テ其月末ニ相渡候事

第四条

居宅食料并私用ノ家具紙筆及ヒ召使等ハ一切自己ニテ可相供事

第五条

備入中他方ニ備ハレ或ハ商業ヲ為スベカラザル事

第六条

怠慢ノ所業アルカ或ハ長病五十日以上ニテ快期分ラ等ニテ其本務ニ妨ケアル時ハ直チニ解備スルヲ得ヘシ此場合ニ於テ第二条ヲ適用スベカラザル事

第七条

日本祝日及ヒ日曜日ヲ除キ毎日午前第九時ヨリ午後第三時迄職務ニ従事可致事

第八条

解備ノ期ニ際シ帰国旅費等ハ一切不遣候事

第九条

上文ニ記載シタル(条脱)候款ノ外ト雖モ長官及次官ノ指図アル時ハ其事務ニ勉勵可致事

右約定致シ候証拠トシテ神奈川県令守固英國人「ベルシワル・オスポルン」ト明治十四年十一月十七日神奈川県庁ニ於テ各此書ニ其名ヲ手記シ式通ヲ作り老通ハ「オスポルン」之ヲ藏シ一通ハ県庁ニ藏スル者ナリ

明治十四年十一月十七日

神奈川県令 沖 守固印

英國人 [Sgd] Percival Osborn

約定書

我日本明治十五年〔西曆一千八百八十二年〕第六月廿六日神奈川県令沖守固ト和蘭人「テー・ダブルユー・ブッケマ」之間ニ下文ノ条款ヲ五ニ固守スヘキ旨ヲ約定ス

第一条

一 「テー・ダブルユー・ブッケマ」ハ我日本明治十五年〔西曆一

千八百八十二年」第七月一日ヨリ日本明治十六年〔西曆一千八百八十三年〕六月三十日迄滿一ケ年間雇ヒ入ル、ニ付右期限中此条約書中ニ記載シアル各務ニ従夏勉勵スヘシ

第二条

一 同氏ハ久良岐郡戸部町微毒病院及ヒ横浜区野毛町十全医院エ日曜日其他公然タル休暇ヲ除クノ外毎日午前九時三十分ヨリ第二時マテ四時三十分間宛出勤内外科ノ患者ヲ治療シ管下日本医員ノ質問ヲ受クルトキハ之ヲ説明スヘシ尤右時間内外ニ拘ハラズ本県ニアル他ノ病院其他医業上ニ付巡視服役スルハ勿論麥死死傷人又ハ流行病等有之出張診断ヲ命スルトキハ速ニ其命ニ応シテ従夏スヘシ

但シ出張ノ節旅費ヲ要スヘキ時ハ県庁ノ見計ヲ以テ適宜支給ス

ヘシ

第三条

一 同氏給料ハ明治十五年〔西曆千八百八十二年〕第七月一日ヨリ始メ雇期限中一ケ月日本通用銀貨三百五十円卜定メ毎日尽日ニ支給スヘシ

第四条

一 同氏ハ給料并第二条但書ニ掲クル旅費ヲ支給スルノミニシテ同

氏隨身ノ費用ハ悉皆同氏ノ自弁タルヘシ

第五条

一 同氏ハ病院ニ緊要ナル夏アラハ其意見ヲ院長ニ告クヘシ但取捨ハ院長ノ權ニアル事

第六条

一 雇期限中県庁ノ都合ニヨリ不得止此条約ヲ廢スルトキハ其時ヨリ向三ケ月分ノ給料ヲ支給スヘシ

但雇滿期前三ケ月以内ナル時ハ其滿期ノ月迄ノ給料ヲ支給スルニ止ム

第七条

一 滿期又ハ期限内廢約解雇スルモ同氏帰国旅費ヲ給セサルヘシ

第八条

一 同氏雇中病氣又ハ其他ノ夏故ニテ闕勤スルトキハ日数三十日以内ハ其職務ニ堪ユヘキ代言人同氏自費ニテ相雇ヒ差出スヘシ

但他行スルトキハ前以テ日数ヲ定メ願出許可之上代人差出シタル後チ発程スヘシ

第九条

一 病氣又ハ其他ノ夏故ニテ闕勤三十日ニ過クルトキハ此条約ヲ廢シ給料ヲ支給セサルヘシ

第十條

一 以上ノ箇条ニ違反スルコトアラハ此条約ハ効ナキモノトス
右約定ノ証拠トシテ本書ニ通ヲ作り神奈川県令冲守固ト和蘭国人
「デー・ドブルー・ブツケマ」ト明治十五年「一千八百八十二年」
第六月二十六日横浜ニ於テ各其名ヲ手記一通ハ「ブツケマ」之ヲ藏
シ一通ハ県庁ニ藏スル者也

神奈川県令 冲 守固印

和蘭国人 Sgd. Beukema

(欄外注記) 明治十六年二月十五日解雇

外国人居留地選卒隊

下名ナル「英国人ワルトル・ロックストン」神奈川県外国人居留地
選卒隊ニ雇ハル、ニ付左之約条ヲ固守スルヲ同意ス

第一

同人ハ外国人居留地選卒隊ニ奉仕シ其職ヲ遂ク可シ

第二

同人ハ居留地取締長ニテ制シ千八百七十三年第一月一日付ナル神奈
川県ノ規則ヲ守ルヘシ其写シ一通ハ同人ニ授与シタリ

第三

同人ハ昼夜共ニ選卒之職ニ従事スヘシ

第四

雇中同人ハ職ヲ去リ或ハ休職スルコトヲ許可セラレザルベシ病氣ノ
為ニ止ムヲ得ス職務ヨリ離ルコトアラハ同人ハ医師ノ証書ヲ居留地
取締長へ出スベシ

同人ハ都テノ薬并医師ノ手当ヲ払フベシ

第五

雇中同人ハ何様ノ家業或ハ商務ニ関係セザルベシ

第六

同人ハ只經驗之為ニ雇ハレ其雇期限ヲ定メナケレハ同人ハ何時ニテ
モ職務ヲ免サレ得ベシ

但シ免職ノ時別段ノ払方ヲ受ケ得ザルコト明亮ナリ

第七

同人ノ給料ハ職務ヲ勤ル間一ヶ月四拾弗ニシテ千八百七十五年六月
(欠字) 日ニ始マルベシ万一死スルコトアラバ同人ノ給料ハ其日ニ止ム
ベシ疾病ヲ得ハ初メノ三十日間ハ其給料ヲ受ケ此日數ノ後ハ再ヒ職
務ニ復スル迄給与ナカルベシ

第八

毎年衣服貳揃ヲ渡スベシ

但シ上衣一ツ股引一対沓一足帽子一ツヲ言フナリ且又一ノ雨衣ヲ一年ニ一度給スベシ

第九

同人ハ横浜邏卒本營ニ於テ外国人邏卒へ備タル室内ニ住居スベシ此室内ニハ一ツノ瓦斯燈ヲ給スベシ

第十

此書面ニ神奈川県ヨリ給スルト記サマル都テ他ノ物品ハ何種タリトモ右「ワルトル・ロックストル」ニテ自費ヲ以テ備フベシ

上文ニ同意セリ

ワルトル・ロックストル 記名

横浜ニ於テ千八百七十五年 月 日

ワルトル・ロックストル之記名ヲ証ス

居留地取締長 イー・エス・ベンソン 記名

(欄外注記)〔英文ヲ以テ本書トス〕
本定約取締候後給料銀貨八十円ニ増額ス
明治十五年十二月廿一日解雇

外国人居留地巡查隊

下名ノ瑞典人「トーマス・ゼームス」神奈川県外国人居留地巡查隊
雇人相成ニ付テハ左ノ約定ヲ固守ス

第一条

本人ハ外国人居留地巡查隊ニ奉仕其職ヲ遂クベシ

第二条

本人ハ神奈川県庁ニテ制シタル明治六年一月一日付ナル神奈川県ノ規則ヲ守ルベシ其写尅通及雇外国人邏卒死傷ノ者吊祭扶助療治料規則書ヲ同人へ授与シタリ

第三条

本人ハ昼夜共ニ巡查ノ職ニ従事スベシ

第四条

雇人中本人ハ一時職ヲ去リ或ハ休職スルヲ許サレザルベシ若疾病ノ為メ止ムヲ得ザル時ハ医師ノ診断書ヲ神奈川県令へ差出スベシ

但本人不謹慎ヨリ醸シタル疾病アルトキハ薬剤并診断料ハ悉皆本人ヨリ相払フベシ然レトモ職務上ヨリ多少ノ疵傷ヲ受ケ或ハ他病ニ罹ルトキハ県庁雇医師ノ療治ヲ受クベシ尤モ自ラ医師ヲ招クトキハ診察薬価トモ本人ノ自弁タルベシ且又職務上疵傷ヲ受ケタル時ハ外国人邏卒死傷者吊祭扶助療治料規則ニ依リ手当金ヲ賜フベシ

第五条

雇人中本人ハ都テノ家業或ハ商務ニ関係セザルベシ

第六条